

私たちは足利の医療と福祉を考え、行動します！

新病院に求められる機能は、良質かつ高度で住民に満足される医療の提供であり、地域の中核基幹病院（高度医療・救急体制―第3次救急の充実―）となることです。また、大規模災害時には、救援救護の拠点（免震構造）となります。足利市は、真に赤十字病院としての機能を果たしうる病院を建設するため、土地の無償貸与（20年間）を行い、国・県・市は支援をしております。今後とも私達議員は、市民の医療・福祉のために、さらなる新足利日赤の充実を図ってまいります。

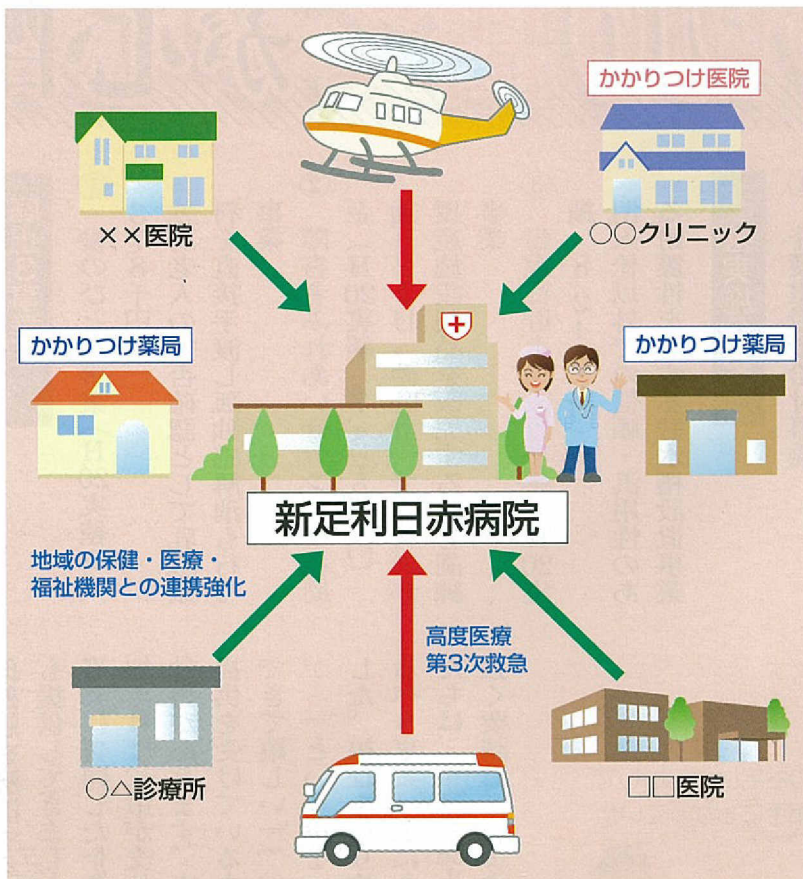
新 足 利 日 赤 病 院 を 考 え る

新足利日赤病院の 基本方針

新たな理念を実現するために8つの基本方針を掲げる。

- ① 質の高い医療・看護の提供
- ② 質の高い医療人の確保と育成
- ③ 地域の保健・医療・福祉機関との連携強化
- ④ 救急医療の充実
- ⑤ 災害に強い病院
- ⑥ 質の高い建築環境の整備
- ⑦ 効率的な病院経営
- ⑧ 自然との融和

※新病院基本構想検討書並びに施設整備計画書より引用。



新足利日赤病院 再整備の理念

栃木県南部の基幹病院として、救急医療・高度医療・急性期医療のみならず、地域住民のリハビリテーションや緩和ケアなどの専門医療を担う使命を果たし、患者・家族に対する癒しと安らぎの環境をあわせ持った病院をつくる。そして、これまで以上に良質で安全な患者本位の医療を提供するとともに、地域の保健・医療・福祉機関との連携をいっそう強化し、地域完結型医療を促進し、地域住民の生命と健康を守る。

※新病院基本構想検討書並びに施設整備計画書より引用。

新足利日赤病院の 役割と医療分業

新足利日赤病院は、両毛地域で最大の中核病院として、高度医療と救急医療が提供されるものと期待されています。したがって、患者がかかりつけ医院との連携のもとに、検査や処置を行うために利用し、継続して通院する病院ではありません。そこで薬の調剤も「かかりつけ薬局」において行うことが望ましいわけですが、どの医療機関にかかろうとも、常に同じ薬局で調剤してもらえば、アレルギーや重複投与、相互作用のチェックをしてもらうことができ、安心・安全です。この医療分業の趣旨に逆行するのが、市が市税約1億5千万円を投入して作るうとしていた調剤薬局なのです。しかもこの調剤薬局を作るために、無理やり公園駐車場や市道を造り、国からの補助金を返還しなければならぬのです。市が調剤薬局に隣接せず、病院近隣に民間が調剤薬局を設置すれば、おそらくは理想に近い「かかりつけ薬局」となることも可能だったはずですが、補正予算において調剤薬局の建設は決定しましたが、高度医療を標榜する新足利日赤病院にふさわしい調剤薬局を、我々足利市民は考えていかなければならないと思います。

調剤薬局建設を めぐる問題とは？

新足利日赤病院の新築に伴い、「市が公共用地内に調剤薬局のための建物を建て、民間に貸し出す」計画があることをご存知ですか。国から譲り受けた足利競馬場跡地に商業施設を建設することは問題があり、さらに医療分業や地域活性化、市税投入（約1億5千万円）の点からも好ましいことではありません。市議会や「競馬場跡地活用調査特別委員会」においても議論はされましたが、まだまだ議論が尽くされたとは言えない状況です。しかし、このような中で、市議会臨時会において、強引とも言える、補正予算成立が議決されました。問題の解決をしないまま、性急に決まった調剤薬局の建設。その問題をもう一度市民の方々と考えてみることで、改善策を見出し、いきたいと私たちは考えております。

医 薬 分 業

医師の診察を受けたあとに処方せんが渡され、街の保険薬局にもっていくと、薬剤師が調剤します。これが「医療分業」です。かかりつけ薬局では薬に対するアレルギー、副作用等を記録しておくことで、薬の安全性を高めることができます。

編集後記

足利赤十字病院の移転は、足利市始まって以来の大事業かと思えます。未来への架け橋ともいえる新病院を作っているさなかに、調剤薬局や事業仕分けの問題で、市民の声がながしるにされていることは、残念でなりません。

新足利日赤病院は、関東随一の病院になる可能性を持っていると言っても過言ではなく、その周囲にはホテル等の様々な施設も必要になってくると思われます。正に民間の力がそこに発揮されるわけです。公費を投じて調剤薬局とか、細々なことはせず、地域の無限の可能性を模索し、大きな発展を望まねばならないのではないのでしょうか。市民に対して夢を抱かせること、これが政（まつりごと）に携わるものの勤めかと思えます。